

情報連絡員報告総括表(平成30年4月分)

三重県中小企業団体中央会
連絡員総数 40名
回答数 40名 (100%)

業界の景気動向(前年同月比)

	売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>(臨時・パートを含む)</small>			業界景況									
	増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化							
製 造 業	食料品	1	3			4		2	2		1	3			3	1		3	1		3	1		4		1	1	2						
	繊維工業	1	1	1		2	1		3			2	1		2	1		3			3			3			3							
	木材・木製品			1		1			1				1			1		1				1		1				1						
	紙・紙加工品		1	1	1	1			2			2			1	1		2			2			2			1	1						
	印刷		1			1			1			1			1			1			1			1			1							
	化学・ゴム																																	
	窯業・土石製品	1		2		3			3			3			3			3		1	1	1		3			3							
	鉄鋼・金属	1				1			1			1		1			1			1				1		1								
	一般機器	1	2			2	1		3			3		1	1	1		3		1	2		1	1	1	1	2							
	電気機器	1				1			1			1		1			1			1			1			1								
	輸送機器	1				1			1			1		1			1			1			1			1								
その他																																		
小計	7	8	5	1	17	2	2	18		1	17	2	4	11	5	3	16	1	5	12	3	3	16	1	5	11	4							
非 製 造 業	卸売業	1		1		1	1		1	1		2		1		1		2		X				2		1		1						
	小売業	1	5			6		2	3	1		5	1		2	4		3	3					5	1	1	2	3						
	商店街		1			1		1				1			1			1						1			1		1					
	サービス業	1	3	1	X				5			5			4	1		4	1					5			5		1	3	1			
	建設業	1	2	1					1	3		4			4		1	3					1	3			4			4		1	3	
	運輸業			1					1			1			1			1						1			1			1			1	
	その他		1						1			1			1			1						1			1			1			1	
小計	4	12	4					8	1	4	14	2		19	1	2	11	7	1	15	4		19	1		19	1	4	10	6				
合計	11	20	9	1				25	3	6	32	2	1	36	3	6	22	12	4	31	5	5	12	3	3	35	2	9	21	10				

最近の主要指標の前年同月比D Iの推移

(平成29年4月～平成30年4月)

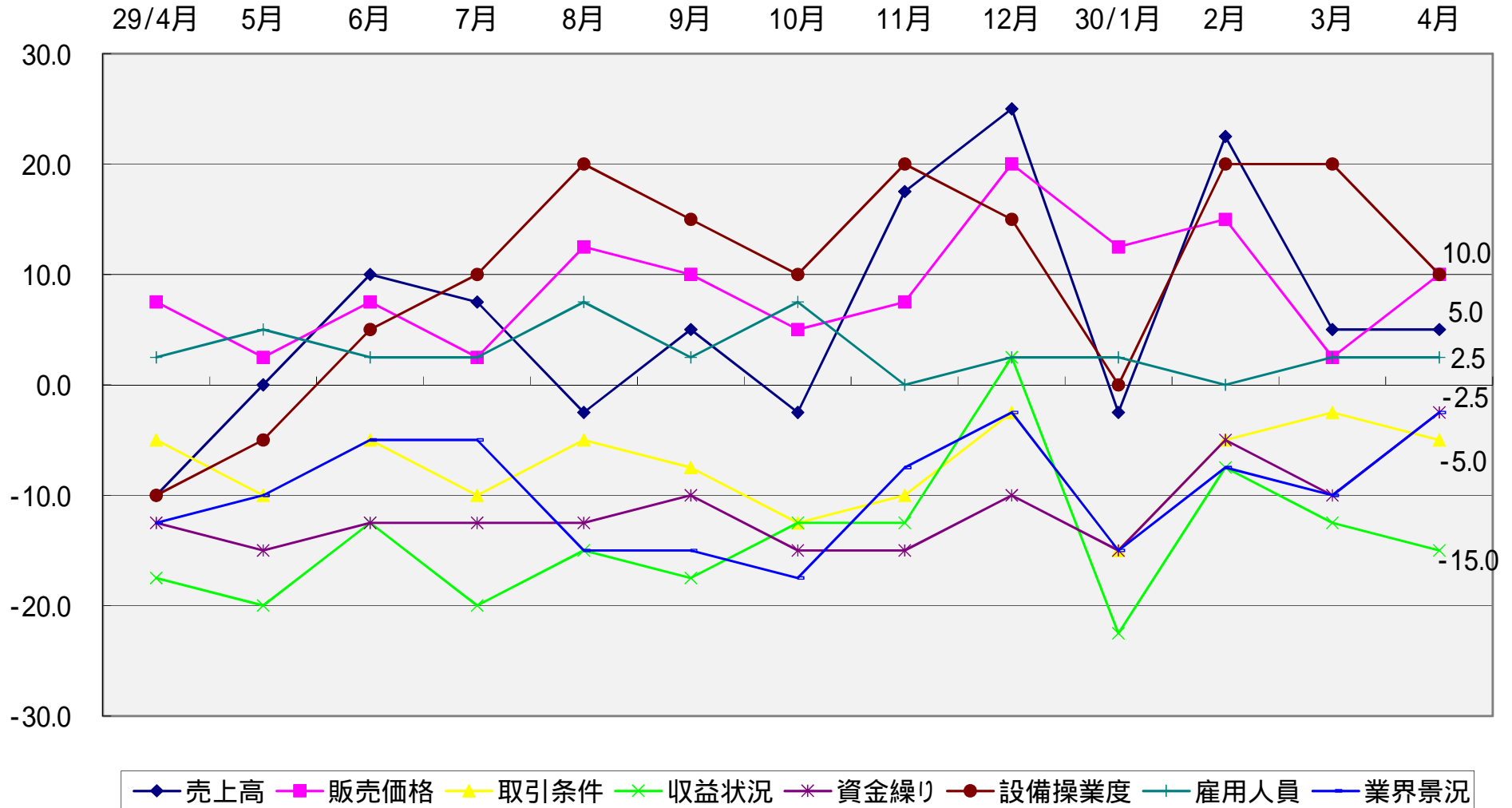
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	29/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	30/1月	2月	3月	4月	増減
売上高	-10.0	0.0	10.0	7.5	-2.5	5.0	-2.5	17.5	25.0	-2.5	22.5	5.0	5.0	0.0
販売価格	7.5	2.5	7.5	2.5	12.5	10.0	5.0	7.5	20.0	12.5	15.0	2.5	10.0	7.5
取引条件	-5.0	-10.0	-5.0	-10.0	-5.0	-7.5	-12.5	-10.0	-2.5	-15.0	-5.0	-2.5	-5.0	-2.5
収益状況	-17.5	-20.0	-12.5	-20.0	-15.0	-17.5	-12.5	-12.5	2.5	-22.5	-7.5	-12.5	-15.0	-2.5
資金繰り	-12.5	-15.0	-12.5	-12.5	-12.5	-10.0	-15.0	-15.0	-10.0	-15.0	-5.0	-10.0	-2.5	7.5
設備操業度	-10.0	-5.0	5.0	10.0	20.0	15.0	10.0	20.0	15.0	0.0	20.0	20.0	10.0	-10.0
雇用人員	2.5	5.0	2.5	2.5	7.5	2.5	7.5	0.0	2.5	2.5	0.0	2.5	2.5	0.0
業界景況	-12.5	-10.0	-5.0	-5.0	-15.0	-15.0	-17.5	-7.5	-2.5	-15.0	-7.5	-10.0	-2.5	7.5

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票 (三重県中小企業団体中央会・平成30年4月分)

	集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製造業	食料品	漬物	漬物類の総生産量は、昨秋の台風や長雨、日照不足の天候不良が大きく影響し、浅漬やタクアン類などの原料が不足したことで減少となった。一方、野菜の価格が上昇した事で漬物が売れる流れとなったが、各社とも生産数量調整を行い、伸ばすことはできなかった。ただ、それが単価を維持する要因となり、大幅な売上減にはならなかった。漬物団体の全国組織において、小規模漬物事業者が管轄保健所に提出する衛生管理計画の作成負担の軽減を図るため、HACCP対応手引書を作成しており、より安心・安全に努めることとなっている。
		醤油味噌	組合員の中には忙しく、景気が好転しているところが見受けられるが、人手不足はどこも大変のようである。この調子で景気が更に上向くことを期待する。
		豆腐	4月21日、22日に東京ビッグサイトにおいて豆腐資機材展が開催されたが、景気の影響かかなり規模が縮小されていた。
		製麺	昨年は菓子博があり、伊勢市に多数の方が来られ、業界としてもとても盛り上がった。今年度は伊勢うどんのイベントは9月末までなく、それに向けて新メニュー開発に取り組んでいく。またHACCPも引き続き取り組んでいく。4月にはPH機の導入に向けて各事業所より商品を持ち寄ってPHの確認を行い、それに向けて検査が簡単にできるように検査機器導入に向けて取り組んだ。
	木材・木製品	木材	合板、木質バイオマス利用と原木の安定供給が大きな課題となっている。
	紙・紙加工品	紙器段ボール	暑い日が続き、夏物(飲料、冷菓等)の生産のスタートが早まる。量的には例年並みの出荷となる。段ボールケースの値上げも、一部のユーザーを除き、理解を得られた状況である。
		古紙	4月の取扱い重量は、前年比で段ボール:約98±5%、新聞・チラシ:約91±5%位、雑誌・雑紙・その他合わせて:約92±6%である。4月に例年のない暑さがあり、段ボール原紙の出荷は好調の模様である。今後の段ボール古紙の入荷に期待したい。新聞古紙は歴史的な首脳会談などのニュースがあっても増刷にならず、着実に減っている模様。雑誌古紙も購入者人口が減り、入荷は前年割れのようなのである。中国の古紙輸出規制と国内製紙会社の4月28日以降の定期修理などで製紙会社や古紙業者の古紙在庫は一杯で各板紙製紙会社(段ボール・白板原紙等)のフル操業を待っている。製紙会社(印刷・コピー新聞用紙等)は未だに減産の様である。現在は段ボール原紙等の輸出もあるようだが、中国の再生原料の輸入規制は続いている。採算を合わせながら人手不足と高齢化対策や人件費の上昇への対応は現状難しい。
	印刷	印刷	例年通り年度末の繁忙期から一転、需要が大幅に減少した。今年も三重県民手帳の売上金の一部を(公社)三重県緑化推進協会へ寄付することができた。また青年部では早くも反省点や新企画を検討しており、県の企画コンペに参加予定である。
	窯業・土石製品	伊賀焼	昨年と比べ伊賀焼伝統産業会館については、売上、入館者数とも減少している。一方、伊賀・信楽古陶館においては、売上、入館者数とも少し増加した。4月になり、暖かくなったが、大きく景気が良くなる風には見えない。ガソリン価格が上がっているのも一因と考えられる。
	鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産量は、自動車関連が好調で、今年いっぱい順調に推移するだろうという観測がある反面、生産量が減少してきている製品もあり、扱う製品によってデコボコがある。半導体関連は、まだまだ好調で生産量が増える傾向は続く。人材不足は相変わらずで、派遣会社からの集まりも今一つで、優秀な人材確保は難しい。
	一般機器	四日市	中小企業である我々組合員一同はそれぞれの企業において公的援助もあまり得られぬ中で、個々の事情を踏まえて努力し、改革を目指して頑張っている。経営環境は決して良好とはいえない。
		伊勢	当地域でも各業種で人手不足が深刻化しているが、最近は求人条件で転職をすると思われる若手から中堅クラスの退職が多いという声を聞く。採用が思うように進まない中、時間外の削減や平準化に向けて、人の確保が一番の課題であり、色々と工夫をしながら人材の募集活動を続けていく必要がある。
	電気機器	鳥羽	新年度に入り、現状は横ばいである。情報としては良い方向である。
輸送機器	鈴鹿	新年度になったが、相変わらず設備稼働率は高いままであり、人手不足の状況が続いている。メーカーも依然としてバックオーダーの解消には至っておらず、もうしばらくは繁忙な状況が続くようである。	
非製造業	小売業	青果	野菜:前半は全体的に安い。特にジャガイモ・サツマイモ、今が旬のタケノコも例年に比べて3割程安い。キュウリ・トマト・レタスの入荷は安定しており、値段も落ち着いている。後半はキュウリ・トマト・ナス・果菜類・キャベツ・ほうれん草・レタスの葉物が3月~4月の好天で入荷が増え、全体的に平年より2~3割安い。ニンジンも平年より5割ほど高値。果物:前半イチゴは入荷が増え、安いが甘味が落ちてきているため、ジャム作りにびったりである。冬の寒さで遅れていた熊本産のメロンも出回り始めた。スイカの入荷も増えてきたが高値である。後半は県産の甘夏と強い甘味・ほどよい酸味が特徴のカラー・今が最高の味。熊本産のスイカは数量が増えてきたが気温が高いため、需要が多く、値段が下がっていない。
		自転車	春需も過ぎ、新学期が始まった。街ゆく自転車は真新しい商品が目立つように感じられる。ほんの一部3月20日頃まで慌ただしく動いていたお店も一段落した感じがする。毎年この時期は修理に見えるユーザーも少なく、かつ商品の動きも悪い中、今年は自動車運転免許証自主返納者に対して電動アシスト自転車利用キャンペーンを実施することになった。しかしながらメーカー側が一部商品に限定したため、各組合員の参加は半数程となり、盛り上がりには欠けている状況である。また、5月からパーツの値上げ(価格改定)の発表があった。

非製造業	小売業	電器	4月度は各地区でメーカー主催の合同展示会が開催された。3月のセールの反動で売り上げは厳しい状況であるが、商品別では気温の上昇に伴い、エアコンの早めの購入を進めている。また実演を交えた家事商品も推進をした。テレビは苦戦の中で4K対応テレビを拡販した。4月は物販が苦戦をする月なので、リフォーム需要を安定的に獲得することが課題でもある。また、5月からの省エネ家電モデル事業推進のため、エアコン・冷蔵庫の販売に向けた準備をした。
		石油	4月度の中東原油（ドバイ）価格については、先月対比5ドル以上も大幅な値上げ状況であり、さらに為替についても、円安傾向の影響により、燃料価格は大幅な値上げ傾向であった。新車販売状況も、ハイブリット車及び軽自動車の販売が主体であり毎年ガソリン販売数量が3%前後減販を余儀なくされている状況であり、販売価格も値上げ傾向であるが、燃料販売数量の増販を図るため、価格競争により各販売店の収益が減少しているのが現状である。
		スポーツ	平成30年度インターハイに関するビジネスが動き始めた。インターハイ実行委員会の入札で服装（全関係者が着用する）約2万5千点を組合で落札できた。後は大会各市の実行委員会の要望と発注、大会当日の選手サービスコーナーの設置と運営に全員で頑張らねばと思っている。
	商店街	熊野	今月開催の日曜朝市イベントは、従来は商店街内を通行止めして開催するが、地元選挙の投票日のため、商店街近くの投票場の兼ね合いから近隣の駐車場を利用して開催した。投票場から近くの間所でもあり、投票を済ませた方たちが訪れそこそこの賑わいがあった。
	サービス業	旅館	春休みの好調が続いていたため、GW前の落ち込みも例年より小さく、前年を上回る集客が出来ていたようである。気になるインバウンド（外国人観光客）の動向は各地でFIT（個人旅行者）の姿が多く見かけるようで、着実に都市から地方へ集客を伸ばしていることが実感として感じられるようになった。またマナー等も随分良くなってきた。
		警備	毎年3月度の期末が過ぎると受注が減少していたが、今年度は災害等の仕事が残っており、先月同様の稼働となった。
	建設業	内装工事業	年度の替わりで売上等はいつも減少傾向にあるのが、前年同月比でやや増加となり、今年度のスタートとしては良い結果となった。
		水道工事業（四日市）	今月は年度始めの4月ということで特に大きな変化は見られなかった。
	運輸業	トラック	景気に停滞感が感じられる。荷動きが悪い。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	
食料品	製麺	HACCP事業の取組み、検査機導入に向けての新しい支援等があれば教えて欲しい。
一般機器	四日市	日本経済を支えているのは中小企業であるが、100兆円の国家予算の内、中小企業振興に向けられる金額は僅かである。
一般機器	伊勢	セミナー等の案内を引き続きお願いしたい。
サービス業	旅館	インバウンドのFITの旅行者がレンタカーや様々な交通機関を使って各地を回る際、問題になるのは表示の多言語化や公衆トイレの様式化、美化等で、早急に整備をして地方に向けて流れを更に強化したい。